

1 2019年度設備投資計画

大手民鉄各社は、大都市圏での著しい混雑状況の緩和等を図るため、各社足並みを揃えて1961年度より1996年度まで8次36年にわたり「輸送力増強等投資計画」を策定し、着実に施設の整備を進めてきました。1997年度からは、混雑緩和に一定の成果がみられることや需要の動向、工事の進捗状況等を勘案し、単年度の「鉄道事業設備投資計画」として整備を進めています。

2018年度は、踏切および運転保安工事に2,379億円を投じて、車両の更新・改良や運転保安設備の整備、耐震補強工事のほか、線路の立体化による踏切道の整理などの工事を進め、安全性の向上に努めたほか、サービス改善工事には1,688億円を投じ、駅施設のリニューアル、エスカレーター・エレベーターの設置を含めたバリアフリー化、運行情報案内表示器の整備、ホームドアの設置などを進めました。また、輸送力増強工事には631億円を投じて、都心への乗り入れ工事や駅の改良、車両の新造・更新などを進めました。

2019年度設備投資計画では、踏切および運転保安工事に2,762億円、サービス改善工事に1,878億円、輸送力増強工事に729億円など、合計で5,380億円を投じる予定です。

■ 各社別設備投資2018年度実績

(単位:億円)

	東武	西武	京成	京王	小田急	東急	京急	東京メトロ	相鉄	名鉄	近鉄	南海	京阪	阪急	阪神	西鉄	合計	構成率
踏切及び運転保安工事	223	168	90	146	91	260	150	632	24	87	167	81	57	115	33	55	2,379	50.2%
サービス改善工事	95	61	50	19	97	164	61	893	25	13	72	19	32	68	13	6	1,688	35.7%
輸送力増強工事	25	1	47	30	103	134	35	101	51	42	2	22	3	—	21	14	631	13.5%
鉄道・運輸機構工事	—	—	—	—	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	26	0.6%
合計	345	231	188	197	319	559	246	1,628	101	144	242	122	93	184	68	76	4,742	100.0%

■ 各社別設備投資2019年度計画

(単位:億円)

	東武	西武	京成	京王	小田急	東急	京急	東京メトロ	相鉄	名鉄	近鉄	南海	京阪	阪急	阪神	西鉄	合計	構成率
踏切及び運転保安工事	209	227	132	236	148	273	112	650	105	115	182	100	60	127	41	45	2,762	51.4%
サービス改善工事	148	83	34	25	128	157	102	899	47	35	64	25	31	84	9	7	1,878	35.0%
輸送力増強工事	39	4	54	35	50	187	57	166	50	37	—	25	—	—	20	5	729	13.6%
鉄道・運輸機構工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0%
合計	397	315	222	297	326	619	271	1,716	202	188	246	150	92	211	71	58	5,380	100.0%

※「合計」と各項目の合計値とは必ずしも一致しない(億円未満切り捨て)

踏切及び運転保安工事: 運転保安設備の整備、耐震補強、線路の立体化による踏切道の整理など。

サービス改善工事: バリアフリー化(エスカレーター・エレベーターの設置を含む)、駅施設のリニューアルなど。

輸送力増強工事: 都心への乗り入れ、駅の改良、車両の新造など。

鉄道・運輸機構工事: 鉄道・運輸機構が施行するニュータウンや都心乗り入れ等の新線建設及び複々線化工事をいい、完成後民鉄が買い取るもの。